

住まいの飾り職人“アトムリビントック株式会社”の広報誌

ATOM NEWS



*Armchair for the entrance hall
of the Faguswerk
Walter Gropius 1910~11*

171

【アトムニュース】
2011 MARCH 春号



つかってみると
 なんだかうれしい
 ここちいい

<i>a</i>	<i>b</i>	<i>c</i>
<i>d</i>	<i>e</i>	<i>f</i>
	<i>g</i>	<i>b</i>

a 壁掛け花器
b ペンダント
c 鍋敷き
d かご
e プレート
f 箸置き
g 栓抜き
b フラワーベース

ギャラリーショップ KANAGU 東京都港区新橋 4-31-5 アトムCSタワー1階 TEL.03-3437-7750

OPEN 月-金 10時-18時 CLOSE 土、日、祝日

Access JR・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋駅」 都営三田線「御成門駅」・「内幸町駅」より徒歩7分

●つくり手の想いやこだわりはWEBでもご紹介中 ☞ <http://interiorfan.com/tsunagu/>



- 03 Friend Circle
カラクリ人形作家 塩浦信太郎さん
- 06 寺・神社めぐり・春
平安時代の貴族も憧れた吉野の花見
- 07 東京再発見
田村酒造場
- 10 ATOM×EARTH VISION

- 11 歴史と伝統そして革新
- 13 新製品情報
引戸ソフトクローズ後付けタイプ
- 15 CSタワー通信
- 17 おとなのオフタイム
Ne Plus Ultra
- 18 オフタイム



171

2011 March 春号

ブックコンシェルジュ
Book concierge

本のスペシャリストがテーマに沿った
オスめの書籍をピックアップ!



ハックネット代官山店にて撮影

安岡洋一さん
洋書店「ハックネット」ディレクター。洋書籍販売のほか輸出入代行業務や商品開発など活動は多岐にわたる。CSタワー1階の書籍コーナーには安岡さんの目利きによって選ばれた洋書が並んでいる。現在ストックなトレーニングでパフォーマンスの向上、細身マッチョへと肉体改造中。フルマランで3時間を切る“サブ3”が目標。



読者
プレゼント



巻末ハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方の中から
抽選で10名様にこちらの書籍をプレゼントいたします。

「あたらしい教科書・住まい」

「住まい」と「人生」にはとても密接な関係があります。
プチグラフィックの新しい教科書シリーズの「住まい」には、
ともに住む人、住む場所、ともに生活を送る道具や設備、家づくり
のいろはなどがイラストや写真とともに紹介されています。自分らし
い「住まい」をつくることを新しい視点で楽しく学べる一冊です。

■ 締め切り2011年4月30日(土)

※ハガキは当日消印有効です。
※当選者の発表はプレゼントの発送を
もってかえさせていただきます。

Theme#14

「近代建築の巨匠」ル・コルビュジェを再読する



LE CORBUSIER

フランク・ロイド・ライトとミース・ファン・デル・ローエと共に「近代建築の三大巨匠」として位置づけられるル・コルビュジェのキーになる作品を集めた一冊。建築家としての顔だけでなく、家具作家としての顔、画家としての顔という三つの顔をトータルに、そしてコンパクトに紹介している。後生の建築家達に多大なる影響を及ぼし、モダニズム建築の礎を築いたコルビュジェを一望できる。



LE CORBUSIER AND THE MAISONS JAOU

造形美を追求したコルビュジェが1954から56年、英国の大富豪のジャウル邸を建築した際のスケッチや施主との手紙や職人とのやりとり、写真などが収められているユニークな文献。コルビュジェ自身が他の文献では多くを語らなかったジャウル邸にフォーカスしためずらしい一冊だ。造形美にこだわるコルビュジェの新たな一面が垣間見られる貴重な資料でもある。



LE CORBUSIER ET SON AMOUR DES VOITURES!

「ル・コルビュジェの愛したクルマ」(岡田 邦雄著)
愛車「ヴォアザン」に乗りながら、自分が建てたサヴォア邸やスイス学生会館などの建造物を見て回ったコルビュジェ。エコカーをデザインし、サーキットも走ったコルビュジェの車への情熱がうかがえる一冊だ。20世紀が発明した自動車と20世紀を代表する建築家の創造の軌跡が同時代史的に読み込めて興味深い。



カラクリ人形作家

塩浦信太郎さん

カラクリ人形シオ・カラの世界



1954年群馬県生まれ。中央美術学園卒業、露天商などさまざまな職業を経験しながら、国内外の各地を旅して回る。同時にNHK紅白歌合戦の舞台背景、NHK新諸国物語「紅孔雀」タイトル作成、NHKみんなのうたアニメーション、NHK教育テレビ「おしゃれ工房」講師、アンデルセンプロ後楽園遊園地での「影絵劇場」などの制作に携わる。1996年に初めてナバホ・リザベーションに赴いて以来、ネイティブアメリカンの世界に惹きつけられる。高松美術館でのワークショップ、中央美術学園などで講師をし後進を指導しながら、テレビの世界から出版広告の世界へ活動の場を広げる。独自の視点でカラクリ人形を制作。カラクリ人形の面白さを広めている

二〇二〇年九月、アトムCSタワー8階のホワイトルームで、『アトムでカラクリ展』が開催されました。

紙や杉板、針金、糸、羽根、布といった身近にあるモノたちが、カラクリ人形作家・塩浦信太郎さんの「魔法の手」にかかると、个性的でユーモラスな動きを見せるカラクリ人形に変身します。

その塩浦さんのカラクリ人形シオ・カラの世界と魅力に迫りました。

塩浦さんとカラクリ人形との

最初の出会いを伺いたいのですが？

いまから十八年ほど前、スタジオオで立体作品の撮影をしていて、たまたま昼食で外に出たとき、すぐ近くのビルの美術館で『CABARET MECHANICAL』と題したロンドンカラクリの展覧会をやっていたんです。猫がネズミを追いかけて食べてしまう動きを延々と繰り返かえずカラクリや、人魚が体をくねらせながら海の中を泳いでいるカラクリなど、八十点以上の作品が展示されていました。それを「目見て」「なんだ、これは！」と驚いて感動した。日常の中に息づいている情景をユーモラスに表現するカラクリ作品に惹きつけられたのと、作品が自分の感性と共鳴しているような高揚感を感じたんです。

その後、何度も展覧会に通いつめ、あらゆる角度から山ほど写真を撮りました。ところが、たしかに作品は面

白いものの、残念ながら写真では仕掛けや動きがわからない。そこで、物は試しと『CABARET』と『CABARET』と

いうカラクリ作品を「体だけ真似して作っただけです。そのカラクリ作りが面白くて、だんだん病みつきになってしまった。そのうちにカラクリ好きの仲間が増え、西洋や日本のカラクリの歴史を調べたりして、自分なりのオリジナリティーを活かした作品を作ようになりました。

塩浦さんのカラクリは、どんな発想から生まれるのでしょうか？

ほとんどの場合、先にスケッチを描いて「さて、これをどう動かそうか？」と考える。動きが先にあるのではなくて、最初に何かテーマがあって、それがどう動いたら面白いかな、人を驚かすことができるかな、たとえば、オペラ歌手がいて、彼あるいは彼女がどんなキャラクターで、どんな歌い方をするのか、というふうな発想



ゆっくりしたモーターを使用して動く箱カラクリ
 『空あるき』
 ピエロが一輪車で時の鈴を片手に持ちながら
 空を歩きつづける

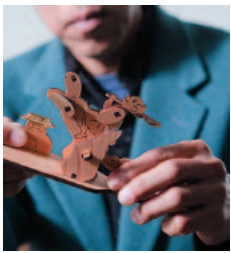
カラクリ作りは人を楽しませること 面白がらせること



CSタワーで行われた『アトムでカラクリ展』



『侍ダンス』
 侍や忍者が、リズム良くEXILEのように
 踊り出す (CSタワーにて展示中)



目の前で動くことがカラクリの魅力

を広げていく。ぼくの『侍ダンス』という作品を例にすると、「江戸時代の侍たちが今っぽく踊ったらどうなるか」と考えて、EXILE(エグザイル)みたいに動いたら面白いだろうな、と。そんな発想から生まれたのが、EXILEばりのダンスパフォーマンスを見せる侍や忍者のカラクリです。ほかにも、ピアノ弾きや牛の口デオ、イルカやクジラ、てんとう虫やカブトムシといった作品があって、それがどう動いたら面白いかが、楽しんでもらえるかアイデアを練る。それがぼくのカラクリ作りの原点ですね。

動きがとても個性的で
 ユーモラスなところが大きな魅力です。

とくに子どもたちは、本当に喜んでくれますね。お母さんが「もう行きましよう」と引っぱっても、作品の前で動かなくなる。ぼくがかつて露天商の手伝いをしていたときに、人が興味を持つ三要素を覚えてもらったことがあって、「鳴りもの、光りもの、動きもの」、この三つを使えば人は振り向いて面白がってくれるというんです。なるほど、と納得しました。カラクリみたいに動くものに好奇心や興味をそえられるのは、人間の本能なんじゃないかな。ある意味では、ハンティングと同じかもしれない

い。何も動いていないときは感じなくても、一瞬何か動いたらスッと目が奪われる。それは人間がもともと持っている狩猟本能や危機管理行動のようなもの。いまの時代は狩猟本能を満たす機会はほとんどなくなっただけで、動くものの興味、動くものの面白さが、モノ作りやアートに変化してつながっているのだらうと思います。

国内でも海外でも展覧会を開催されていますが、何かエピソードは？

いちばん記憶に残っているのが、四国・高松美術館での三時間のワークショップです。このときは、ぼくが興味を持つ





四国・高松美術館でのワークショップ



子どもたちが作った個性
ゆたかな『カチーナカラクリ』



箱カラクリ
『大喰い』食べ続ける男

生きている喜びや 感動が実感できるのがカラクリの魅力



インディアンフルートを吹く塩浦さん



ネイティブアメリカンの世界を
伝える著書も多い

ているネイティブアメリカンの「カチーナ」という精霊をテーマに選び、黒板に物語の絵を描いて説明しながら作りました。ふつう子どもはすぐに飽きて、三時間はとてももたない。でもカラクリの「おいしい部分」は、じつは最後にあるんです。途中で飽きて「もういいや」と放り投げたら、動くカラクリはできあがらない。インディアンの顔を描いて色を塗り、毛糸を巻いたり、葉っぱをつけてみたり……そんな作業がつづけられるのは、最後に動くところが見たいからです。で、最後の最後に、箱形のインディアンの顔が開いて、中から小さなインディアン人形が出てくる仕掛けが完成すると、「やった!」「動いたあ!」と子どもたちは感動する。カラクリにはそんな驚きや感動、面白さがあるからこそ、大人も子どもも夢中になるんでしょうね。

興味を持たれたきっかけは？ ネイティブアメリカンの世界に

ナバホ族などのネイティブアメリカンの文化・風習や社会の不平等を描いたマikel・チミノ監督の映画『心の指紋』を観て、「インディアンのいる場所に行ってみてみたい」と思ったのが最初のきっかけです。実際に彼らと生活を共にしてみて、素朴で力強い生命力や、身のまわりすべてに物語があり意味があるという暮らしのスタイルに、あらためて感動しました。丘の上に立てば「あの山の頂に神が降り立った」と伝説が語り始められ、一本の樹にも精霊が宿っていると信じ、自然と一体化した物語と歴史が混然となつて彼らの生活に溶け込んでいる。現代の日本人が失ってしまったものを、彼らはいまでも大切に守りつづけている。そこが素晴らしい。世界中を旅してきたぼくが、十年以上もアメリカに通いつづけているのは、そんな魅力をネイティブアメリカンに感じているからです。

いま塩浦さんが挑戦していること、 これから挑戦したいことは？

新しく作っているのは『テーブルの中に棲む虫の精』という作品です。じつは昨年アトムさんで展覧会をしたときに「机の中で何か動くものができないか」という提案をいただいたんです。そのアイデアに触発されて机の中に生き物がいるとしたら、どんな虫だろう?と想像して作りはじめた。仕掛けとしては、テーブルの蓋を開けると巨大な虫が現れて、羽根や脚や触角が生きているように動き出すというもの。でも、この虫は決して害虫ではなく、テーブルと「共生」「共生」している虫なんです。今後の挑戦としては、こうした作品と音楽とのコラボレーションを考えています。自分だけの作品世界から一歩抜け出して、他人とのコラボで新しいテイストが生まれるのではないかと。それに挑戦してみたいという気持ちがありますね。



作成中の
『テーブルの中に棲む虫の精』

最後に、塩浦さんにとって カラクリ人形の魅力とは何でしょうか？

生きていることを実感できるのが、カラクリの魅力だと思いますね。「動くものが好きだ」ということは、そこに行きつくのではないのでしょうか。人間が生きているのは、心臓が動いているということ。同じようにカラクリの動きの中にも、生きる喜びやユーモア、驚きや感動がある。紙や木で作られたものが目の前で動く驚き、面白さ、素晴らしい。カラクリを作りつづけているのは、ぼくの心の中に「動かしたい」という衝動があふれているからでしょうね。



平安時代の貴族も憧れた吉野の花見

四月になるとヤマザクラに埋め尽くされる吉野山
標高が高いため、下から順に咲き、それだけ見ごろが長いと言われるが、
ベスト日に当たるのは、実はかなり難しい

春と言えば、一番の楽しみはお花見。

全国の神社仏閣には「花見の名所」と呼ばれるところが多いが、その中でも歴史が古く、もともと有名なのが、金峯山寺を中心とする吉野である。

吉野山の桜は、花と葉が一緒に出るヤマザクラである。ソメイヨシノは江戸時代末期ごろに園芸種として作られたものだが、それ以前は、桜と言えば自生種のヤマザクラを指した。しかし吉野山に無数にある桜の木の多くは、自生ではなく、植林によるものだ。

その起源は今から約二三〇〇年前。修験道(神道、仏教、道教が習合した日本独特の山岳宗教)の開祖とされる役行者が、吉野山中での修行の果てに蔵王権現を感得し、その姿を桜の木に刻んで祀り、以来、本尊を刻んだ桜の木を御神木として献木するのが伝統となった。つまり、吉野に桜が増えたのは、美観が目的ではなく、宗教的な理由からだったのだ。

現在の吉野には二百種約三万本の

ヤマザクラの木があり、麓から山上に向かって順に開花していく。ひと目で千本の桜が見えると言われる場所が四ヶ所あり、下から「下千本」、「中千本」、「上千本」、「奥千本」。一気に咲いて散ってしまう平地のソメイヨシノと違い、四月初旬から下旬にかけて長期間楽しめる。

しかし、通の人々にとって吉野の桜の見ごろは、実はそう長くない。もともと眺めが素晴らしくなるのは、上千本の花が咲きそろい、中千本と下千本がまだ咲いている状態だ。その時期には、谷は薄いピンクの雲に埋め尽くされ、尾根の上を桜の帯が走るように見えるが、ベスト日は、せいぜい三日ほど。大雑把に言えば四月二十日前後だと思うが、その年の気温によって大差があるため、地元の人でも事前予測は不可能。しかも、雨が降ったら一晩で散ってしまう。何年通っても

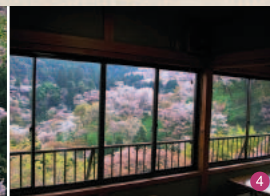
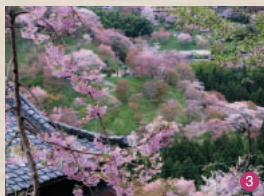
その日に当たらない人もいると聞くので、これは一種の運試しだ。

わたしは以前、吉野山を歩く修行に参加して蔵王権現様にしっかりとお参りしたせいか、二〇〇八年に、見事その日を引き当てた。満開日にたまたま風が吹くと、谷の桜の花びらが巻き上げられて珍しい上向きの桜吹雪となるが、これも見る事ができた。すべてを一発で当てたわたしは、よほど日ごろの行いがよいらしい。



文・写真／吉田さらさ

テラタビスト(寺旅研究家)として文筆や写真撮影、ツアー企画などを行う。NHK文化センター青山校、朝日カルチャーセンター新宿校にて、東京とその近郊の寺めぐりの講義も行っている。2010年にNHK「直伝 和の極意〜とおきの宿坊を楽しむ!」に講師として出演した。



① 中千本 ② 金峯山寺 ③ 吉野山からは谷一つはさんだ山の中腹に位置する如意輪寺。ここから眺める桜は絶景 ④ 中千本の民宿からの眺め

奥千本からの風景

東京
再発見

ふっさ
福生市・田村酒造場

取材文／倉田ひさし
撮影／大垣善昭

江戸の風情と 伝統を守る武蔵野の酒蔵

武蔵野を流れる清冽な玉川上水のほとりに、
 文政五年（二八二二年）に創業した田村酒造場がある。
 白壁と黒板塀のコントラストが美しい酒蔵では、
 身を切るような寒さの中、酒造りの最盛期を迎えていた。
 蔵の軒先に杉の葉を束ねて丸く刈り上げた「酒林」が吊られると、
 それが新酒の誕生を知らせる目印となる。
 江戸の風情を彷彿とさせる佇まいを守りながら、
 蔵人たちによつて、伝統の日本酒造りがつづけられている。

酒蔵の歴史を見つめる 大樫と井戸のある風景

樹齢数百年といわれる樫の巨木が天を仰ぐかたわらに、一本の井戸が掘られた。いまを去る一八九年前、文政五年のことだ。その井戸から、田村酒造場の歴史の一步が始まっている。

もともと田村家は、代々福生村一帯の名主をつとめた家柄。江戸の徳川幕府から年貢取り立てや用水灌漑の指導など、自治的

な役割を任されていたという。

造り酒屋の家業を興したのは、田村家の九代目勘次郎。酒の仕込み水を探すため、広大な敷地内の各所で井戸を掘りつづけた。幾度もの失敗を重ねた末、ようやく掘り当てたのが、いまなお滾々と湧き出る秩父奥多摩伏流水の井戸である。

水質は中硬水で、酒造りには最適な水だ。勘次郎はこの水を「よろこぶべき泉」として讃え、酒銘を『嘉泉』と命名した。これが、田村酒造場の酒造りの由来である。



新酒の仕込みの最盛期を迎えた酒蔵

勘次郎の酒『嘉泉』は、地元の人々に愛され、江戸庶民の「初夏の酒」「夏越しの酒」として愛飲されたという。

以来、現在に至るまで、時代の変遷を見つめながら酒造りの伝統が守りつづけられた。「明治、大正、昭和と二部建て替えや補修はあったものの、佇まいはほとんど変わっていない。江戸の雰囲気を感じられるだけ残そうとしてきました」と十六代目当主の田村半十郎さん。

風格のある大樫と井戸は酒蔵の歴史とともに歩んできた、いわばシンボリックな存在でもある。

日本人の心のルーツ 神事でもある酒造り

漆喰の白壁と黒板塀。モダンデザインを思わせる美しい酒蔵が建ち並ぶ敷地内に、玉川上水から引きこまれた分水が流れる。かつては、その清冽な水で木桶の下洗いをし、水車を回して精米も行ったという。酒造り



1



2

①樹齢数百年と伝えられる大樫の樹

②九代目勘次郎が仕込み用水に掘り当てた井戸

アトムの視点

蔵用錠前

場内には日本酒醸造用の酒蔵のほかに、保管庫としての蔵も点在していました。鉄板を貼った観音開きの重厚な扉と、その奥の木製引戸がいつそう厳格な趣を放ちます。手のひらほどもある頑強な錠前は、蔵用として作られた和錠の一種でしょう。表に鍵穴を見せない洒落たデザインに、江戸の香りを感じました。



においては、すべての工程に水が重要な役割を果たす。まさに「命の水」だ。

馥郁たる香りを放つ大吟醸酒の場合、山田錦などの酒造好適米を極限まで精米して削り、秒単位で洗米し浸水させて蒸しあげる。

その蒸米で米麴や、酒のもととなる「酒母」を造り、「酒母」に米麴、蒸米、水を三段階に分けて加え「醪」を仕込む。このとき、仕込みタンクの中では、米の澱粉を米麴で糖化し、その糖を酵母がアルコールに変える発酵作用が同時に進行している。これを低温で長期間じっくり醸すと大吟醸酒ができあがるが、その間、真夜中にも発酵の具合を見張るなど、毎日が緊張の連続だ。

世界的に珍しく、かつ技術的にも難度が高い日本酒造りの真髄がここにある。思い描いた

とおりの酒ができるかどうかは、酵母による見えない力を信じるしかない。酒造りが神事といわれるゆえんが、ここにある。

「酒造りはいつも一年生。生き物を相手にしているわけだから、厳密に言えば同じ酒はできない。思ってもいないことが起きるからこそ、難しいし愉しいし、やりがいも生まれる」と田村さん。

日本人の心のルーツともいえる酒造りは、そうした蔵人たちの「最高の酒を造りたい」という想いを重ねて受け継がれてきた。

守るべき日本の文化 酒蔵の景観と佇まい

「和をもって良質の酒を醸す」の精神が酒造りの大黒柱だ、という。

その精神を真摯に追究したのが「抜群の高精米を誇る本醸造を造り、二級酒として販売する」という試みだった。

昔ながらの方法を守るだけではなく、より良い酒を造らなければ、そのうち熾烈な販売競争に負ける。自分たちが理想とする酒を造ろう、というロマンに賭けた。

そうして誕生したのが『まぼろしの酒・嘉泉』。その旨さは、まさに幻のごとく酒通の間で評判となり、東京国税局管内新酒鑑評会で二十五年連続優等賞を獲得するほど田村酒造場を代表する銘柄となった。

とはいえ、いま日本酒離れが噂され、消費量は右肩下がりをつつけている。日本文化の伝統の灯が消えかかろうとしているようだ。

「私にできるのは蔵人が受け継いできた伝統の技や精神風土を、酒造りを通して感じ取ってもらうこと。日本の伝統文化の素晴らしさを、もう一度見直すという役割の端くれを、私たちが担っている気がする」と田村さん。

その視線の向こうに、凜とした雰囲気漂わせる酒蔵の存在がある。

「守るべきは、酒蔵のある景観や佇まい。ここ福生の地にあつて、酒蔵の佇まいを残すこと、守っていくことが、私の使命でもあると思う」

杉の「酒林」が掲げられた酒蔵には、いまでも創業当時の古い柱が残され、江戸の面影を伝える。

風雪の時を越えてきたその柱や酒蔵とともに、田村酒造場の新たな酒造りの歴史が刻まれていく。



①田村酒造場の玄関門から白壁の酒蔵を望む
②文政五年創業当時の柱は今も健在
③蔵人たちは酒造りの神に感謝と祈りを捧げる
④大きな和釜で湯を沸かし甗で酒米を蒸す



「丁寧に造って丁寧に売る」が家訓
銘醸『嘉泉』のラインアップ

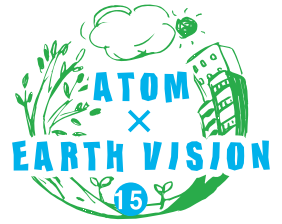
Information インフォメーション

田村酒造場

- 所在地／東京都福生市福生626
- 問合せ先／042-551-0003
- HP／<http://www.seishu-kasen.com>
- 交通／JR福生駅より徒歩10分
- 酒蔵見学／事前に電話予約が必要。12月、1月を除き、10名以上で申し込んでください。
(駐車場あり)
- 営業時間／午前8時～午後5時
- 定休日／日・祝日(冬期を除き月曜日休業あり)



アース・ビジョン 第19回 地球環境映像祭



子どもアース・ビジョン賞決定

「アース・ビジョン 地球環境映像祭」の第19回が去る3月4日(金)から6日(日)に四谷区民ホールで開かれました。子どものための環境映像部門には、18の国と地域から、70作品の応募があり、2度の選考会を経て、5作品が子どもアース・ビジョン賞に選ばれました。

● 子どもアース・ビジョン大賞 ●

母の日のおくりもの

(イラン/2009/監督:ハイマン・デフガーニー/14分)



アスランは、ファールス地方に住むガシュガー族の少年。ラジオで次の日が母の日だと知った彼は、お母さんが喜ぶ贈り物を探そうと集落を歩くうちに、自分の部族のことをもっと知るようになる。そして、最後にお母さんにとって最高のプレゼントとは何かを知る。

■講評: イランの「母の日」は、預言者ムハンマドの愛娘の誕生日。母のことを思い、素敵なプレゼントを探しにいく少年は、まるでわらしべ長者のようだが、相手のことを思いやる気持ちは、少年を取り囲む村の美しさややさしさをタペストリーのように見せてくれる。これは遠い国の一少年と母の物語であり、それと同時にあなたや私の母との物語なのだ。
(柴原 みどり/ジャパンGEMSセンター)



ハイマン・デフガーニー
1972年、ホッラムシャフル生まれ。
アニメーション修士号を持つ。

神の御名においてイランの部族は過酷な移動生活をおくる遊牧民です。生活模様や純粋なアートと山岳や砂漠での移動は彼らの暮らしに織り込まれています。暮らしがアートなのです。私は現代のテクノロジーを駆使して、今や忘れ去られようとしている、彼らの暮らしの美を蘇らせることを願い、このアニメーションを制作しました。映像祭の成功を、そしてこの美しい地球を守ろうとするみなさまの努力が実ることを、願ってやみません。

● 子どもアース・ビジョン賞 ●

エコ田んぼ一挑戦!生き物あふれる米作り

(日本/2010/監督:刈田 章、阿久津 哲雄/43分)



荒れ果てた杉林を生き物豊かな棚田に生まれ変わらせる。農業も化学肥料も使わないその水田は「エコ田んぼ」。視聴者から公募した9組の家族や仲間からなる「エコ田んぼ隊」を結成し収穫の秋を目指す。田んぼが生き物たちの楽園になっていく様子を描いたドキュメント作品。

■講評:日本人の原風景である棚田を通じて、家族の絆などが深まっていく。完成した棚田に集まる生き物を育てていくことを通して、自分たちの生活も豊かになっていくことに気づき始める。明るく生き生きとしている子ども達の表情が印象的。
(高橋 康夫/新宿区市谷小学校校長・全国小学校環境教育研究会相談役)

子どもどうぶつ劇場一カッコウの托卵 & キツネ親子は河原暮らし

(日本/2010/監督:岩崎 雅典/30分)



「カッコウの托卵一子育ては他人まかせ」は、ユニークなカッコウの子育ての物語。何とも不思議な野鳥の世界。「キツネ親子は河原暮らし—お宿はどこ!?」は、住宅難で河原に住みついたキツネ親子の物語。人間の住む近くでたくましく生きるキツネ親子の姿を描く。

■講評:「キツネ親子は河原暮らし」は、人の生活の近くに残された自然の中で生きるキツネの親子のたくましい生活に微笑む一方で、最近すっかり都市生活に馴染んできたタヌキのように生き延びられるのが少し気がかりになった。
(三橋 淳一/NPO法人新宿環境活動ネット)

小さな狩人

(イラン/2008/監督:ジャアファル・ヌールモハンマディ/22分)

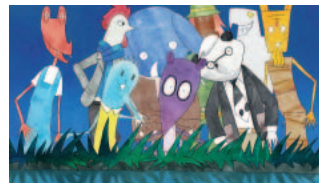


マルガンは鳥の鳴き声を真似るのが得意な13歳の村の少年。猟師たちは鳥を狩るために、彼のこの特技を利用して、村の教師は、マルガンの特技が狩りに利用されるのを止めようとする。

■講評:舞台は雪が覆うイランの山奥の街。この作品は、つくられた笑いやスリル、スピード感などは一切ない。ごくありふれた日常の中に見られる、少年と先生や生徒たちとの温かいふれあいを通じ、身の回りの自然の素晴らしさや大切さをそっと感じさせてくれる。
(渡辺 恭秀/新宿区教育委員会 指導主事)

動物かんきょう会議一笛吹き男 & マジカルミステリーツアー

(日本・中国/2010/監督:西村 純二/10分)



地球環境の問題を動物たちの目を通してやさしく世界に発信しようというショートアニメシリーズ。「人間に任せてはられない」と、世界中から集まった動物たちが、いろいろな立場の中で意見を衝突させながら、地球環境に関する様々な問題について考え行動していく。

■講評:各国代表の様々な動物たちのキャラクター設定もユニーク。多様な価値観は、大人社会を見ているようで考えさせられます。動物たちから見た世界も見ものです。
(菅野 智子/横浜保育福祉専門学校主任)

そして「バウハウス」へ エピソード

インテリアデザイナー
卯野木憲二

バウハウスは、今でもドイツのデザイン界、及び建築、工業界の誇りである。バウハウスの伝統を引き継いでいることをカタログに表記することは、ステイタスになっている。そしてバウハウスは世界のモダンデザイン界及びデザイン教育に強烈なインパクトを与えた。モダンデザインを一気に芸術的でありながら機能化、工業化にシフトさせた功績は大きい。勿論、日本のモダンデザインも例外ではない。

バウハウスが存続したのは1919年から1933年までの14年間に過ぎない。この14年間でそれから現在までの約80年間を支配しているといっても過言ではない。

バウハウスの栄光の歴史を知っていることは日本の建築、工業、デザイン界及び教育界でも常識なので、ここではその知識をより増やす為に、主にあまり知られていないエピソードを話

す。そしてカバーストーリーもその一部として読んでいただきたい。

バウハウスが存続した時代のドイツにおいては、バウハウスは、例えば落日の瞬間に一瞬の光芒をはなつた奇跡ともいえる。

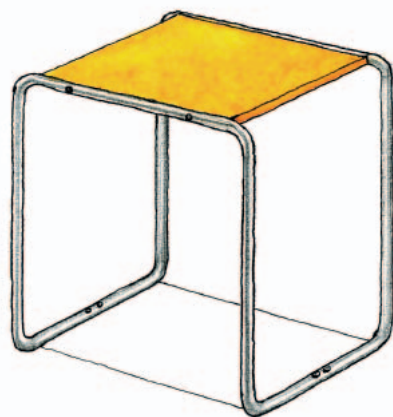
知つての通り、バウハウスは1919年ヴァイマル共和国(今のドイツ)の国立の美術工芸学校として作られた。ヴァイマルは都市名でもあり、ベルリンの南西方面に位置する。次に

1925年には都市デッサウにその市立バウハウスとして移転した。デッサウはベルリンとヴァイマルの中間に位置する。1932年には私立となりベルリンに移転し1933年、ヒトラー

が首相になると、ナチスにより閉鎖させられた。これはバウハウスが発展していくのではなく、縮小していく苦闘の歴史といえる。ナチスの勢力の増大と反比例している。理由はナチスがモ



デザイン：マルセル・ブロイヤー
鉄パイプチェアに初めて背がついた作品。
カンチレバーの鉄パイプチェアのヒントになったチェア。



デザイン：マルセル・ブロイヤー
鉄パイプチェアの開発といえば、バウハウス。
初めて鉄パイプで作られたスツール兼テーブル。

COVER STORY

～表紙で掲載している「チェア」イラストについて～

《ファグス靴工場のエントランスホールの為の アームチェア》

デザイン:ワルター・グロピウス



このチェアは表題の通り、グロピウスの初期の建築で、傑作と言われていたファグス靴工場のエントランスホールの為の、1910～1911年にデザインされた。木材の材質は不明だが、ヨーロッパの伝統の黒檀風塗装仕上げになっていた。当時の評価として、芸術的で美しく、その構造は独創的で工業化にも適し、標準化された工業生産にふさわしいデザインと絶賛された。今では、モダンデザインのチェアの原型の1つとなっている。

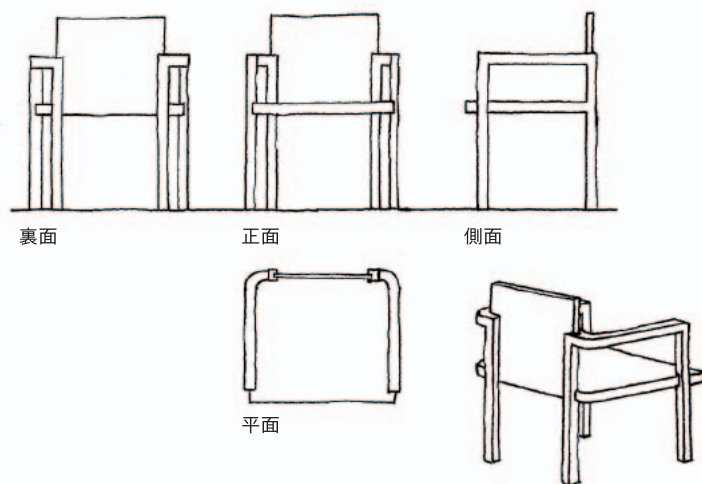
グロピウスは工科大学で建築を学び、その後、ペーター・ペーレンスの事務所で働いた。くしくも、彼を含めたモダン建築の巨人達、ミス・ファン・デル・ローエヤル・コルビュジェもこの事務所の出身だった。ペーレンスはモダン建築やデザインの草分けだった。

こうした環境で腕を磨き、1910年27歳で独立した。彼はこの時代の上層社会に属していた。彼の伯父も建築家だった。社交界では、もてもてのイケメンだったらしい。そのコネクション等が若手建築家のホープとして仕事の後ろ盾となり、有名になっていったようだ。

バウハウスへの第一歩は、1915年4月のアール・ヌーボーの創始者、アンリ・ヴァン・デ・ベルデからグロピウスへの手紙より始まった。ベルデはドイツ帝国を構成する中の1つの国、ザクセン大公国の美術工芸学校の校長をしていた。時期は第一次世界大戦中でベルデは敵国人として迫害をうけていた。そこで学校を去る決意をし、グロピウスに後任になって欲しいと手紙で依頼した。そしてその時には既に、内閣に対し校長への推薦をしまっていた。しかし内閣は美術工芸学校には冷淡で、ベルデが去った後、閉鎖してしまい、グロピウスには美術アカデミーに建築科を設け、その教授になって欲しいと依頼した。そこでグロピウスは1916年1月に美術工芸等の教育の創設を勧告したが、戦局の悪化でうやむやとなっていた。グロピウスは戦後の1919年に、元の大公国美術アカデミーに手紙を出し、ベルデの要請が、まだ生きているか確認した。そして幾度かの交渉を重ね美術工芸学校を含む元大公美術アカデミーの校長に就任した。その後、1919年3月に国立バウハウスと名称変更が承認されたのだった。勿論、保守的な美術アカデミーの大きな抵抗があったことはいまでもない。

ダンデザインを嫌いだっただからだ。よってバウハウスを目的にした。ナチスは重厚、壮大な建築や芸術が好きで、権力を誇示するものを好んだ。ナチ党員がヴァイマルやデッサウにやってきて街頭でバウハウスの非難演説をし、市民に対してアジテーションをしつこくしていった結果、市民がそれに乗ってバウハウスを追い出したのだった。その非難演説の主旨は、バウハウスが共産党だということだった。共和制を維持するためには、1917年、隣国ロシアで起こった一党独裁の過激な共産主義はドイツ国民に

とっては恐怖だった。また、ナチ党も正式名称「国家社会主義ドイツ労働者党」が示す通り、社会主義を標榜していた。ナチ党にとっても共産主義は絶対の敵対理由だった。
1918年、第一次世界大戦中にドイツ帝国は内部崩壊し、敗戦した。勝利者のイギリスやフランス等の連合国側の意図のもとに共和制になったとしても、その民主的体制の始まりにバウハウスは生まれ、内容的に成長したのだった。そして共和制の終焉とともにバウハウスは終わった。



カバーストーリーのアームチェアのドローイング: ワルター・グロピウス
グロピウスのドローイングの一部。背部と後脚部のおさまりが美しく、
17年後にル・コルビュジェがデザインした有名なパイプフレームのソファ、
グランド・コンフォートもこのチェアからヒントを得たと推測できる。

引戸ソフトクローズシリーズに下荷重引戸用の後付けタイプが新たに加わりました。

引戸ソフトクローズ後付けタイプ

既存の下荷重引戸に後付けできる、住宅室内用の引戸システム金具です。

戸が閉まる約50mm手前よりソフトクローズ機構が作動し、引戸の跳ね返りや衝動音を防ぎます。

後付けタイプなので施工が簡単で、戸の引込みの力の調整も可能です。

⚠ 幕板や戸袋が無い環境でご使用ください。

適用可能な下荷重引戸

- 走行抵抗=0.7kgf以下
 - 引戸の重量=30kg以下/1枚
 - 下レール=Y型レール
 - 戸車=ベアリング入りY型戸車（弊社推奨品：FA-1000-BY）
 - 鴨居の残り代=15mm以上
- ※ 金具の納まり参考図参照（左ページ）

金具の使用場所

FC-125

- ソフトクローズ本体
戸のソフトクローズ側端部に取り付けます。

FC-125-C

- 化粧カバー
ソフトクローズ本体を覆うカバーです。
仕上げはシルバー塗装、白塗装、黒塗装の3色です。

FC-350

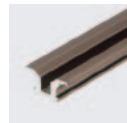
- トリガー
鴨居の残り代に取り付け、ソフトクローズ機構を作動させます。
仕上げは白色、グレー色、黒色の3色です。

FC-330S

- 取付用スペーサー
※あらかじめトリガーに嵌めこまれています。
ソフトクローズ本体を引戸に取り付ける際に、トリガーとソフトクローズ本体に適正なすきまを設けるためのスペーサーです。施工完了後に取り外してください。

NYレール（ツバ付き）

- 下部掘込レール
床または敷居に掘込んで使用します。
戸車走行溝はY型戸車用の形状になっています。



FA-1000-BY

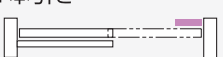
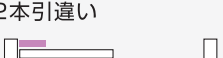
- 下部調整戸車
戸の下部に取り付ける戸車です。
ドライバー1本で簡単に戸の上下・前後調整ができます。
車輪は走行円滑で、戸が外れにくいY型戸車を使用しています。




FA-100-K

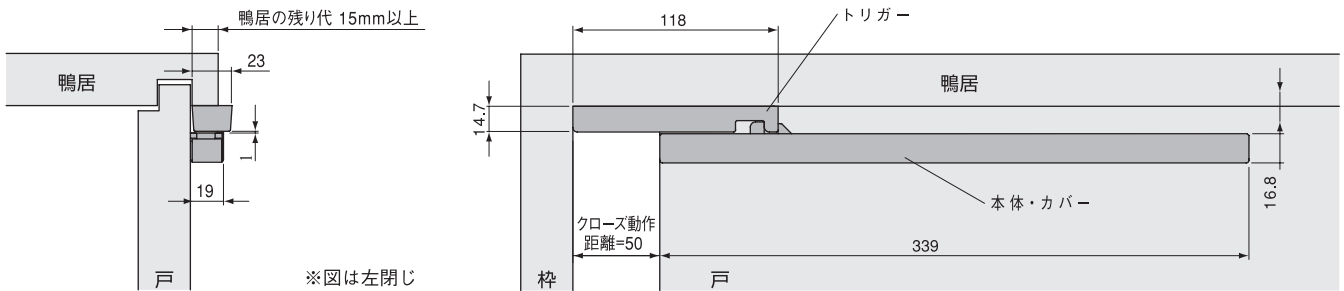
- 下部調整戸車用キャップ
下部調整戸車用の化粧キャップです。
戸の木口面から金物を見せたくないときにお使いください。

■ 金具のセット例

使用金具の種類 引戸の形式	下部掘込レール	FC-125セット			下部調整戸車	下部調整戸車用 キャップ	価格 (税抜)
	NYレール (ツバ付き)	FC-125	FC-125-C	FC-350 FC-330S	FA-1000-BY	FA-100-K	
1本引き 	1,820mm 1本	1セット			2ケ	2ケ ※必要に応じて	¥8,440
2本引違い 	1,820mm 2本	2セット			4ケ	4ケ ※必要に応じて	¥16,880

※上記セット例は各引戸タイプを構成する金具とその必要数量を示しています。セット梱包状態を示しているわけではありません。
 ※上記構成以外で使用される場合はご相談ください。 ※  FC-350の取付位置を示します。

■ 金具の納まり参考図



※図は左閉じ

※製品についての詳細は各ショールームまでお問い合わせください。

住まいの金物 ひとくち集

解錠と開錠

鍵を開けることを、「解錠」と書いたり「開錠」と書いたりします。「解錠」とは、施錠された状態にある錠を破壊することなく開けること。「開錠」とは、施錠された状態にある錠を破壊する・しないにかかわらず開けることです。「施錠」の対義語は「開錠」となります。

想いを寄せる相手の心の鍵は、やさしくナチュラルに「解錠」したいものですね。



亜吐夢金物館

4階ヒストリーコーナーもお見逃しなく

生まれ変わるCSタワー周辺

桜前線の北上と同時に花粉前線の広がりも非常に気になる頃となって参りました。同じくして、CSタワーのある新橋界隈は、フレッシュな新人さんたちに遭遇する機会も多くなり、そのたびに自分の若き頃を懐かしく思い出します。

ここ数年の間、CSタワー周辺は大規模な工事が続いています。それは環状2号線の新橋・虎ノ門地区再開発です。通称マッカーサー道路とも呼ばれていた地区の都市計画道路は、平成27年度の開通を目指しているそうです。これまでオフィスビル街のイメージが強かったこの区域も、数年後には大型商業施設、憩いの広場、共同住宅区域などが加わり、大きく変貌することでしょう。

昔懐かしい金物が勢揃い

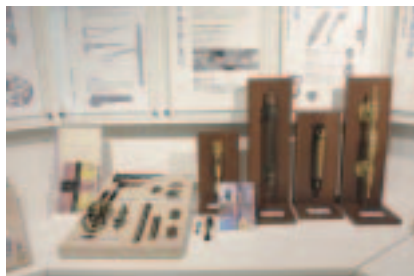
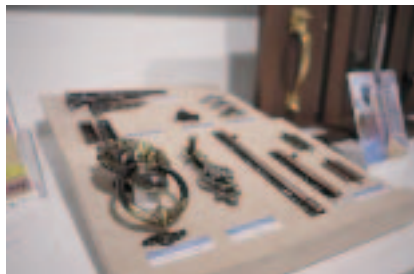
さて、ここからは亜吐夢金物館「ヒストリーコーナー」のご紹介です。4階エレベーター脇の一画に設けられているヒストリーコーナーでは、「ATOMとその時代」と題し、金物づくり100年の歴史を20年ごとに区切って常設展示しています。

現在の展示は、1960年からの20年。当時の

代表的な洋風金物、和風金物、ハンドルやノックカーなどのドア金物、170号の「東京再発見」で登場した面付栓錠もご覧いただけます。スライド丁番が海外から日本にやって来たものこの頃。国産スライド丁番の進化史やプレス工程、分解パーツなども取り揃えて解説しています。CSタワーにお越しの際には、是非お立ち寄りくださいませ。

また、左ページでお知らせの通り、4月には新製品を揃えた「2011春の新作発表会」を開催いたします。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

文／亜吐夢金物館 館長 菊地俊郎



ヒストリーコーナー

2011春の新作発表会開催時には、ヒストリーコーナーの展示内容が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。



2階展示フロア



TOPICS

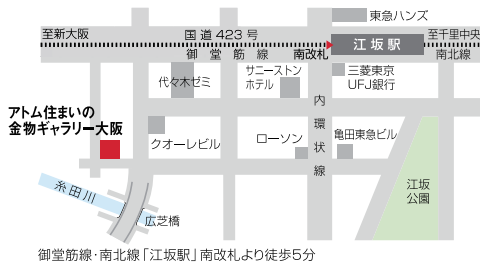
アトムリビンテック
「2011春の新作発表会」のご案内

大阪会場

4/13(水) 14(木) 15(金)



●アトム住まいの
金物ギャラリー大阪
大阪府吹田市広芝町18-5
tel.06(6821)7281



東京会場

4/20(水) 21(木) 22(金)

同時開催

東海大学デザイン学課程 産学協同作品展



●アトムCSタワー
東京都港区新橋 4-31-5
tel.03(3437)3440



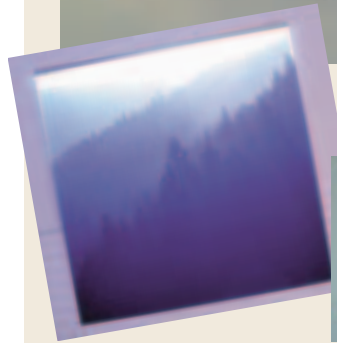
JR山手線・銀座線・都営浅草線「新橋駅」より徒歩7分
都営三田線「御成門駅」・「内幸町駅」より徒歩7分

ご来場ご希望の方は、
アトムリビンテックホームページより招待状を
プリントアウトしてお持ちください。
<http://www.atomlt.com>

みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

CSタワーの
イベント近況報告です

「BREAZING ~呼吸~ The EXHIBITION」

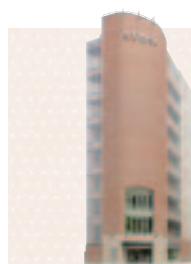


月の光だけを頼りに撮影された「BREAZING」は、LEDを効果的に使用した展示方法によって、一層幻想的な世界を創り出していました。

摘み取ったりせずに、あるがままの植物の背景にカラーパネルをそえ、生命のひとつを切り取った「はなという」。

フォトグラファー新倉万造氏とアートディレクター大宮篤士氏による、作品展「BREAZING~呼吸~ The EXHIBITION」が、8階ホワイトルームで開催されました。

夜の闇のなかで人知れず呼吸を続ける生命のエネルギーをテーマにした新作「BREAZING」シリーズと、かつてバリの展示会でも好評を博した、和花と日本の伝統色をモチーフにした「はなという」シリーズ。日本人ならではの繊細な季節感覚が、どちらも余すところなく表現されていました。



ATOM CS TOWER

サロンスペース
真鍮コレクション

Bf

近未来住空間
イメージフロア

5F



ギャラリーショップ
KANAGU

1F



オンデマンド事業部
オフィス

6F



自分自身に還る場所を求めて

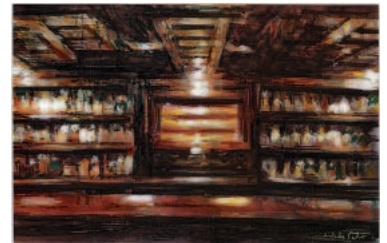
六本木交差点の喧騒をぬけ、俳優座劇場の裏手へ。そこに忽然と姿を現わす酒場がある。

「Ne Plus Ultra」(「これより先はなし」という意)。鉄製の扉には、ただその言葉だけが掲げられている。

店名の「Ne Plus Ultra(ネ・プラス・ウルトラ)」は、デューワースのスコッチウイスキーの最上級ブランドから命名されたもの。異国の空で逝った作家、向田邦子がこよなく愛した酒としても知られる。

扉を開くと、重厚な木製扉を開け、地下への階段を降りると、目の前に中世の貴族の書齋を想わせる世界が広がる。一九〇〇年初頭アンティークのウインググソファや革張りの椅子、マホガニーのテーブル。獅子の紋章がレリーフされた石造りのマントルピース。「バーの原点であるヨーロッパのジェントルマン倶楽部をつくるのが狙いでした」とオーナーバーテンダーの古田浩二さん。

オーセンティックでもなく、流行を追いかけるバーでもない。自分だけの特別な空間で



ネ・プラス・ウルトラ【Ne Plus Ultra】

東京都港区六本木4-9-1佐竹ビルB1F

TEL:03-3475-5525

営業時間:PM3:00~AM3:00

2011年1月から会員制。

Member:入会金/30,000円 年会費/15,000円

Premium Member:入会金/50,000円
年会費/25,000円



オーナーバーテンダーの
古田浩二さん



あり、安らぎを感じさせるバーでありたいという想いがあった。

「ビンガの伐り出し一枚板のカウンターの後ろには、葉巻用のヒュミドール。酒棚にはオールドのウイスキーやワインテージのコンヤックが並ぶ。グラスを傾け、シガーをくゆらしながら、日常から隔絶した、とっておきの「時間」を過ごすオフタイムの愉しみ。

「独りきりになり、自分を見つめ直し、自身に還る場所であるような空間、それがバーという存在だと思おう」と古田さん。

わたしとは何者か？

わたしは何処に行こうとしているのか？

その答えは、グラスの底に潜む「精霊(スピリッツ)」だけが知っているのかもしれない。

管理部長 鈴木 梨恵

本社受付のほか、サポート業務全般を務める。



三年程前からフラワーアレンジメントの教室に通っています。以前通っていた英会話スクールで、よく一緒に授業を受けていた方がフラワーアレンジメントの教室をやっていた方が誘われました。最初はあまりやる気はなかったのですが、年に二度行く海外旅行以外は特に趣味もなかったもので、始めてみようと思いはじめました。

最初の二年間はシルクフラワーやプリザーブドフラワーを使って作るアーティフィシャルフラワーのクラスで、リースや壁掛け、バスケット、トピアリー（幾何学的図形や動物をかたどった作品などにグルーガン（のり）を使って花を飾りつけ、作業は図工の時間のようなでした。不器用な私は毎回苦勞しながらも先生の力を借りてなんとか作っていました。気に入った物は部屋に飾っています。

しかし、やっぱり生花をやりたいと思い、現在は生花を使ったアレンジメントを習っています。花の扱いは難しく、なかなか思い通りに作ることはできませんが、花に触れているとそれだけで心が癒やされるような、優しい気持ちになれるような感じがします。

一年前までは、私の通っている時間帯は先生と二人だけでしたが、今では生徒も四人に増え、お互いの作品を比べてみたり、また、レッスン後は先生の淹れてくれるお茶を飲みながら、お花とはまったく関係のない話をしたりと楽しい時間を過ごしています。毎回「今日はどんな花を使ってアレンジメントをするんだろう？」と、行くのがとても楽しみです。



レッスンの後は、アクセサリーや恋愛の話に花が咲きます



読者の声

みなさまよりお寄せいただいたご意見を
いくつかご紹介いたします。

このうすさ(本の厚みのことです)で内容の濃さに脱帽! 自分の生活サイクルに合った「本」です。アールヌーボーの記事もあった。ガウディを見て思ったのは、アールヌーボーではなく、ガウディは構造設計家であり、音響設計家でもあり、総合環境芸術家であった。スケールの大変大きい人であったのだなと思いました。
＜群馬県 かうでえ様＞

建築家の作品特集をして下さい。
＜東京都 N.N様 男性＞

家具金物、建具金物の百科事典を作成してほしい。
＜石川県 ダメ部長様＞

英国の家具、建築物を中心にヨーロッパデザイン、イタリアの家庭用品なども紹介してほしい。
＜京都府 ホトケノマツ様＞

今月パリ旅行に行ってきました。「歴史と伝統そして革新」の写真にあるような建物を、現地ガイドさんが「貴族の文化が残っている」と話していたのを思い出します。
＜新潟県 I.Y様 女性＞

今後の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

編集後記

テレビや雑誌でしか見たことのない酒蔵の中を見学できるとのことで、楽しみにしていました。蔵に一步入るとどこなく緊張感が漂っていて、私も背筋がびんと伸びる思いでした。実際に一つ一つの工程を説明していただき、その場を見せていただく、ものすごく手間隙がかかっていることを実感。もっと大事に味わって飲まなくてはと申し訳ない気持ちになり、今までの日本酒の飲み方を反省しました。
＜瑠璃＞

2009年秋号(165号)からお楽しみいただきました表紙のイラストと、「連載歴史と伝統そして革新」が、今号をもちまして終了となります。これまで読者のみなさまからは、たくさんのお声援を賜り、大変ご好評をいただきました。卯野木さんの今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。
＜編集スタッフ一同＞



「おとなのオフタイム」シリーズの絵を描いている佐藤英行さんの作品展が神奈川県相模原市のBAR Eau de Vie (オードヴィー)で行われます。

BAR Eau de Vie アーティスト・コレクション展

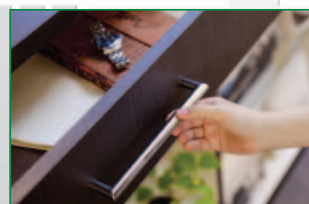
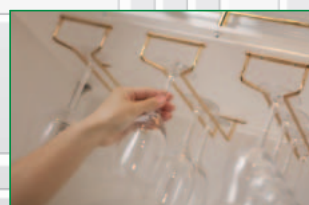
会場: BAR Eau de Vie (オードヴィー)
神奈川県相模原市南区相模大野3-11-18 竹山ビルB1
日時: 2011年4月1日(金)～4月30日(土)
18:00から翌2:00 (店休日: 日曜日)
tel.042-765-5660
http://eaudevie98.exblog.jp/

個人情報の取り扱いについて

アンケートや書籍プレゼントにご応募いただいたみなさまの個人情報は、書籍プレゼントおよび「ATOM NEWS」の発送にのみ使用いたします。ご本人の承諾のない限り、第三者に提供することはありません。また、ご応募の集計結果は個人を識別できない形で管理の上、「ATOM NEWS」の企画・編集・制作の参考にさせていただきます。

住まいの名脇役でありたい。

目立たないけど、いい味だしてる。
住まいのさまざまなシーンで活躍する、
アトムの金物です。



役立つ情報
満載!

ATOM
DATA
LINE
10・12

住まいの部の人 **ATOM** アトムリビンテック株式会社

■本社 / 〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL.03-3876-0600 (代表)

特販事業部 TEL.03-3876-0603 FAX.03-3876-8833

卸売事業部 TEL.03-3876-0602 FAX.03-3876-4435

■アトムCSタワー / 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5

オンデマンド事業部 TEL.03-3437-3673 FAX.03-3437-4699

亜吐夢金物館 TEL.03-3437-3440 FAX.03-3437-3565

■アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所 / 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5
TEL.06-6821-7281 FAX.06-6821-7282

■札幌営業所 / 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東三丁目28-32 井門札幌東ビル1F
TEL.011-748-3113 FAX.011-753-3015

■前橋営業所 / 〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7
TEL.027-223-2651 FAX.027-223-2661

■広島営業所 / 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16-9 みさおビル1F
TEL.082-291-4235 FAX.082-291-4880

アトムリビンテックのホームページもご覧ください。 <http://www.atomlt.com/>